

地方版2.5次元ミュージカル♪

2.5次元ミュージカルって何？

「2.5次元ミュージカル」というジャンルが大人気だ。2.5次元とは、マンガやアニメ、ゲームなどを原作、原案とした舞台のことをいう。2次元のマンガを3次元の人間が演じるので、間をとって2.5次元というわけだ。

例えば『美少女戦士セーラームーン』『テニスの王子様』『ハイキュー!!』『弱虫ペダル』『刀剣乱舞』などなど。原作人気と、出演キャストの人氣が相まって、相乗効果を上げている。

ちなみに「2.5次元ミュージカル」は商標登録されているので、宣伝コピーには使えない用語だ。

実は私が関わった西条市主催の市民ミュージカル『走れ！夢の新幹線〜キクとシンジの物語〜』（初演2015年、再演2018年）も、まさに「2.5次元」だったので、ご紹介したい。

新幹線の生みの親・十河信二さんをマンガに

主人公は新幹線の生みの親、元国鉄総裁・十河信二さん（明治17年〜昭和56年）。

愛媛が生んだ昭和史の傑物だ。

十河さんは新居浜出身、西条中学（現・西条高校）に通い、一時期西条市長も務めた。それで、西条市は長年にわたり「十河信二顕彰事業」を施策とし、シンポジウム、イベントの開催、鉄道ミュージアムの開設などを行ってきた。その一環として、十河さんのマンガを制作することになり、同じ西条高校出身のマンガ家である私が、描かせていただくことになったのだ。

昨今「マンガでわかる○○○」というスタイルの本が多く出版されている。マンガがあると、難しいこと、とつきにくいことでも、わかりやすく面白くアプローチできる。私自身、このスタイルは得意分野で、60冊くらい著書があるが、ほとんどこの「マンガでわかる○○○」形式だ。

どんなに立派な内容の本でも手にとって開いてもらわなければ始まらない。活字は苦手という人もいる。そんな方でもマンガなら手にとってくれる。まずは入門書として親しんでもらい、もっと深く理解したければ、さらに専門的な本を読んでもらえれば、さらに専門的な本を読んでもらえれば、いいわけだ。

マンガを通じてもっと若い世代にも、十河さんの功績を伝えたいというのが西

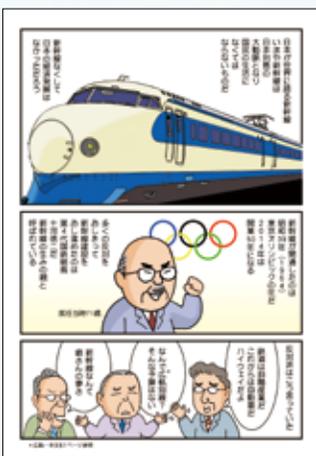
マンガ家 つだゆみ



条市の狙いだ。マンガ『夢の超特急ひかり号が走った 十河信二伝』は関係者のご協力のもと、2014年に無事完成した。私は市内の高校全てで講演会をさせていただき、私にとってもありがたい貴重な体験になった。

このように、自治体が制作してマンガ本を出版する。これはこれで新しい。

しかし話はこちらから面白い。マンガ「十河信二伝」を原作に、あの東温市の坊っちゃん劇場とのコラボが実現し、市民参加型のミュージカルを制作することになったのだ。「地方版2.5次元」だ。



マンガ『十河信二伝』より

初の市民参加型ミュージカルに

舞台化のきっかけは、私の高校時代の同



オーディション募集チラシ



ミュージカルポスター

級生に村上ナッツさんというミュージカル脚本家がいる。彼女と「十河さんの話を坊っちゃん劇場で演つてくれるといいね」と、夢を語り合つたことから始まる。なんでもやってみるものだ。村上さんの書いた企画書と脚本案は西条市で採用され、坊っちゃん劇場の協力のもと、初の市民参加型ミュージカルを上演する運びとなつたのだ。

もちろん、そのために当時の西条市長、市役所の企画室の方々、坊っちゃん劇場の関係者の方々に多大なご尽力をいただいた。感謝感謝だ。

開催が決まり、まず市民に呼びかけて

オーディションをすることに。市役所の担当者「ミュージカルなんて、大丈夫やるか？ 誰も応募がなかったらどうしよう」とかなり不安がつていた。が、蓋を開けたらびっくり。百名くらいの応募があったのだ。

小学生からご年配の方まで、現役教師の方とか、外国の方とか、世代を超えて本当に多士済々。西条高校ダンス部や、ママさんコーラスも参加。坊っちゃん劇場、完全一期座からプロの役者も加わり、総勢百数十名の大所帯になった。

初演は2015年の8月。2回公演で2千人を超える観客が来場。出演者は素人とは思えないくらい上手い演技で、キクさん（十河さんの奥様）が亡くなるシーン



右から脚本の村上ナッツさん、シンジ役の菅明彦先生、キク役の藤岡美保さん、つだゆみ ミュージカル出演者達



などは会場のあちこちですすり泣きがかえした。子供達の熱演ぶりにも本当に感激した。半年の稽古でここまで上手くなるのかと驚いた次第だ。

演劇も地産地消？

私は地方のポテンシャルの高さを感じずにはられない。冒頭に紹介した『弱虫ペダル』などのミュージカルはメジャーな興行だが、地方は「祭り」なのだと思ふ。西条市は特に祭りが熱い。祭り好きの熱量が「ミュージカル」という場で発露した。

今回の成功は、せつかくだからモデルケースにしてみらえると嬉しい。

「地産地消」という言葉があるが、まず地元の偉人をマンガ化する。それを原作に舞台化。地元の人が演じて、地元の人が観る。「人物伝の地産地消」ってありなんじゃないかな。

地域の埋もれた偉人を掘り起こし、地元の人に知ってもらふことは地域活性化につながる。地元に着愛着と誇りを持ってもらえる。

そして子供の教育にも大きな意義を得られる。今回のように、幅広い世代の人と一緒に一つの舞台を作り上げる喜びは、子供達にとって素晴らしい体験になったことだろう。

十河さんのミュージカルは好評につき、昨年再演された。お祭りのように、毎年楽しみに恒例行事になって欲しいと思ふ。